

インプラント周囲炎の予防～逆転の発想でインプラントを守る～ Prevention of peri-implantitis ~Saving implants with reversal idea~



Takeshi Sasaki
佐々木 猛

医療法人貴和会 新大阪歯科診療所 新大阪歯周病・インプラントセンター

インプラント治療は欠損補綴の第一選択として、広く歯科臨床で応用され、多くの患者がその恩恵に浴しているが、その反面、インプラント周囲炎という世界的な大問題がその未来に大きな影を落としているのも事実である。近年、インプラント周囲炎に対する種々の治療法が紹介されつつあり、そのなかには一定の効果を示す方法もみられるが、多くの問題がそうであるように、インプラント周囲炎も問題が発生してから対処するより問題が起こらないように予防的に対応する方がより容易で、患者および術者の負担も小さくできると思われる。インプラント周囲炎の原因には様々な因子があるが、そのなかでもプラークによる細菌感染が最も大きな要因であり、清掃性の確保がその予防において、非常に重要であることに疑いの余地はない。したがって、歯周治療学的観点からインプラントポジションや埋入深さ、角化粘膜の存在、上部構造の形態など清掃性に関わる諸条件を整え、適切なプラークコントロールを推奨することがインプラント周囲炎を予防するために求められる。さらに、ボーンレベルインプラントを用いる場合、一般的にソーサライゼーションによる骨吸収を可及的に小さく抑え、プラットフォーム周辺に骨レベルを維持させることを目指すが、この対応が皮肉にも垂直性骨欠損の形成とラフサーフェイスの露出というインプラント周囲炎を惹起しやすい状態を作ってしまう可能性を注意喚起する声は非常に少ない。今回の講演では、逆転の発想でソーサライゼーションを利用して、インプラント周囲の骨形態および骨レベルを整え、真に清掃しやすいインプラント周囲環境の構築について考察したい。

【略歴】

佐々木 猛

1995年大阪大学歯学部卒業

医療法人貴和会 理事長

JIADS 理事／ペリオコース、補綴コース、ペリオインプラントアドバンスコース、GBR コース講師

元大阪大学歯学部臨床准教授

東京医科歯科大学歯学部非常勤講師

長崎大学歯学部非常勤講師

American Academy of Periodontics (AAP) International member

American Academy of Fixed Prosthodontics (AAFP) Active member

日本臨床歯周病学会理事／指導医、歯周インプラント指導医